

地域人材ネット

地場産品を創出し、限界集落で企業経営を行う

小松圭子 (こまつけいこ)

有限会社はたやま夢楽 代表取締役社長



○ 登録者情報

所在地

高知県安芸市

略歴

- 1983年 愛媛県生まれ。
- 2006年 早稲田大学政治経済学部経済学科(堀口健治ゼミナール)卒業。
- 同年 愛媛新聞社入社。記者として4年半、愛媛県内の農業などを取材。
- 2010年 7月結婚、9月末にて愛媛新聞社を退職し、夫が暮らす限界集落へ移住。
夫が経営する「はたやま夢楽」にて土佐ジローの生産販売や、「はたやま憩の家」の女将として事業を手伝ってきた。
- 2017年 1月、同社社長へ就任。
限界集落での産業基盤の確立と、次世代へ繋げる楽しいむらづくりを模索中。
- 同年 2月、総務省「ふるさとづくり大賞」個人表彰【総務大臣賞】受賞。
- 2016年 9月、長野県から新規雇用として、移住者を受け入れし、2017年4月には東京都から大学卒業をしたばかりの新人を雇用予定。

2児の母。



○ 地場産品を創出し、限界集落で企業経営を行う

取組の内容

半世紀前に800人が暮らした高知県安芸市畑山地区では、急激な人口減少で現在は40人へと激減しました。畑山集落で生まれ育った夫が「自分が大好きな故郷で暮らしたい、産業を興せば次代にも繋げられる」と一念発起し、高知県の地鶏「土佐ジロー」養鶏をスタート。
試行錯誤を繰り返しながら、全国に認められるブランド鶏へと成長させてきました。
2010年に、「夫と限界集落でも次代に楽しい村としてパトタッチできるような取り組みをしたい」と結婚。畑山へ移住しました。
夫が経営する有限会社はたやま夢楽の一員として、土佐ジローの販路開拓や、安芸市の指定管理施設「はたやま憩の家」の経営改善などに取り組みました。現在、憩の家には年間3千人が訪れております。
2017年、同社社長に就任し、県外からの移住者の受け入れも積極的に行い、限界集落でも希望の種をまき続けることで、次代に繋げるむらづくりを行っています。

実績

- 高知県の地鶏「土佐ジロー」販売額 *生産量は大きな変動はありません
移住初年度 2011年6月決算;約2,600万円
昨年度 2016年6月決算;約3,660万円
- 安芸市指定管理施設/食堂・宿「はたやま憩の家」年間売上額と同施設利用者数
2011年6月決算;6,300人、約1,400万円
[内訳;日帰り入浴2,000人、67万円/食堂約3,500人、1,010万円/宿泊800人、323万円]
*内訳の食堂売上には、宿泊客の食事分も含むが、人数には含んでいません。
2016年6月決算;2,500人、約1,580万円
[内訳;日帰り入浴無/食堂1,600人、1,100万円/宿泊900人、480万円]
*宿泊客の食事利用分も含めた売上額 1,140万円、ランチ営業の売上440万円
- 従業員数;2011年5人(+役員2人)→2017年4月7人(+役員3人)。
- 集落外からの雇用6人(安芸市内3人、高知市内1人、県外からの移住者2人)

工夫した点や苦勞した点

「土佐ジロー」の種卵生産は高知県が行うため、増羽が難しい現状があります。販路を変えることで、売上を増加させました。

「はたやま憩の家」は、安芸市の条例により、大きな赤字を生み出してしまう日帰り入浴の継続や、長時間営業、宿泊料の安価な設定などにより、経営が圧迫されていました。

顧客ニーズを日々聞き取り、また、市民の力を借りることで、安芸市との交渉テーブルを確保し、条例改正を果たしました。



ひとことPR

限界集落でも複数の業種を組み合わせることで、事業経営をすることができます。

人口減少による労働力不足は深刻ですが、通年で雇用できる環境を生み出し、魅力的な会社創りをする中で、生き甲斐を求める若者たちと新しいむらを創っていきます。

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革		7	まちなか再生
○	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
	5	定住促進		11	その他
○	6	観光振興・交流			

関連ホームページ

はたやま夢楽 <http://tosajiro.com>

連絡先

メールアドレス	tosajiro[アットマーク]hyper.ocn.ne.jp	その他	
---------	--	-----	--

※メールを送る際には[アットマーク]を『@』に変えてください。

戻る